

民國文獻資料叢編

民國
金融史料
彙編

殷夢霞 李強 選編

國家圖書館出版社



224

殷夢霞 李強 選編

民國金融史料彙編

第二二四冊

國家圖書館出版社

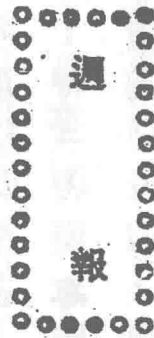
第二二四冊目錄

滿洲興業銀行週報

第一八一號	一九四一年七月十日至十三日	一
第一八二號	一九四一年七月十四日至二十日	五七
第一八三號	一九四一年七月二十一日至二十七日	九五
第一八四號	一九四一年七月二十八日至八月三日	一二九
第一八五號	一九四一年八月四日至十日	一七一
第一八六號	一九四一年八月十一日至十七日	二〇七
第一八七號	一九四一年八月十八日至二十四日	二四七
第一八八號	一九四一年八月二十五日至三十一日	二八五
第一八九號	一九四一年九月一日至七日	三二五
第一九〇號	一九四一年九月八日至十三日	三六五
第一九一號	一九四一年九月十五日至二十一日	四〇三
第一九二號	一九四一年九月二十二日至二十八日	四五三

行外配付第七九號

行外秘



第一八一號

(自康德七年七月七日
滿同 同十三日)

滿洲興業銀行調查課

週報 第一八一號 目次

△週間滿洲重要日誌

一頁

△週間國外重要日誌

二頁

△內外時局展望

四頁

△滿洲財界事情

本年度輸出貿易ノ情勢

一 特ニ特産專管制ノ影響ニ就テ

別冊

外國爲替管理ノ強化

六頁

金融引締政策ノ影響

九頁

農產物出廻リ活潑化

一〇頁

炭礦労働者確保對策

一一頁

本年上半季中ノ金滿手形交換所交換高

一三頁

週間發表經濟統計

一七頁

△日本財界事情

而工、農林兩省機務調整

一八

十五年度交作豫想收穫高

一九

外國貿易概況（七月上旬）

二〇

公債五億圓發行

二一

東京卸賣物價（六月分）

二二

株式市況

二三

金融事情

二四

△支那財界事情

北支產業五箇年計畫要項決定

二五

北支資金調整強化

二六

蒙古、通貨取締法第二次改正

二七

△諸表

銀行週末主要勘定殘高

二九

滿洲中央銀行券、日本銀行券、朝鮮銀行券發行高

三〇

海外爲替相場、海外金銀塊相場 三一

株式相場、東京短期 三二

全 奉天、大連短期 三三

商品相場、大阪綿布、棉花、神戸豆粕 三四

重要商品公定價格、大豆、豆粕及主要糧穀 三五

全 米穀、綿糸布 三六

全 砂糖 三七

◎週間滿洲重要日誌

七月十日

△日本紀元二千六百年御慶祝、勸諭訪日ノ、皇帝陛下本日新京御著、回鑾アラセラル。

十一日

△爲替管理法ニ基ク命令ノ件中改正（經濟部令）、七月十五日ヨリ施行。

△西班牙經濟使節團來京。

◎週間國外重要日誌

七月七日

△獨逸 ヒットラー總統、ベルリンニ於テ伊チアノ外相ト會談。

八日

△蒙古 駐外代表部官制、駐華辦事處官制公布。

△英國 日本ノビルマ援蔣路禁絕要求ヲ拒否。

△佛國 國務會議憲法修正決定。

九日

△日本 商工、農林兩省機構調整閣議決定。

△日英協定ニ基キ天津英國租界内保管現銀十萬磅ヲ分離引渡開始。

△佛國 上下院憲法修正可決。

△ フランス銀行業務再開。

△ソ聯 イラン、トルコニ對シ領土割讓要求ノ最後通牒ヲ發ス。

十日

△日本 陸軍軍令ヲ以テ軍司令部令、師團司令部令ヲ公布（全本土ヲ四軍管區ニ分チ兵備體系ヲ改革）、八月一日ヨリ實施。

△米國 ル大統領議會ニ特別教書ヲ發シ四十八億四千萬弗ノ國防追加豫算ヲ要求。

△ルーマニア 國際聯盟脫退。

△勃・洪通商條約調印。

十一日

△佛國 ペタシ元帥フランス國首席ニ就任。

△ 首都ヴェルサイユ、政府機關パリニ移轉。

十二日

△佛國 ペタン新内閣成立。ルブラン大統領辭職。

△英國 日本ノビルマ援蔣路禁絕要求ニ讓歩ヲ示ス。

十三日

△日佛天津細目協定成立

△マキシコ 大統領選舉ニ國民黨力マテ氏當選。

内外時局展望 (六月)

六月十日伊太利ハ遂ニ英、佛兩國ニ對シテ開戦ヲ宣言シタ。ムツソリーニハ、地中海ノ鐵鎖ヲ斷タントスルノダト云ツテ立ツタ。同國ノ參戰ハ既ニ久シイ世界ノ宿題デ、何人モ此ノ日アルベキヲ豫想シテ居タノデアルガ、其ノ態度ガ頗ル慎重デアツタダケニ事茲ニ至ツテ、愈々蹶起ノ感ヲ深クシ、又之ガ今次歐洲戰爭ノ動向ヲ決スル上ニ重大ナル要因トナルノデ、流石ニ各國ニ多大ノ衝動ヲ與ヘタ。伊太利ノ開戦宣言ヲ受ケルヤ佛政府ハ對伊開戦ヲ全國民ニ宣言シ、直チニ應戦ノ姿勢ヲ執ツタガ、英國ハ準備ハ既ニ全シトシテ表面ハ平靜裡ニ立チ上ツタ。一方獨逸ハ感激ト歡喜ニ國民ノ血ヲ沸カセ、米國ハ全世界ニ失望ヲ與ヘルモノデアルト米國自體全世界デアルカノ如キ體ノ聲明ヲ發シ、ソ聯ハ沈黙ノ裡ニ密カニ微笑ヲ洩ラシテ居タヤウデアル。而シテ日本ハ十一日駐日伊、英、佛三國大使ヲ通ジ、支那ニ於テ交戰國相互間及帝國トノ間ニ不慮ノ事端ヲ誘發セシメザル様申入レヲ行ヒ、米、獨兩國大使ニモ右申入レノ旨ヲ通達シタ。

斯クテ世界ハ之ヲ契機トシテ如何様ノ新展開ヲ示スカ、異常ノ關心ガ茲ニ集メラレタノデアルガ、伊太利ノ參戰ハサナキダニ敗色濃キ佛陣營ニ急激ナ動搖ヲ與ヘ、一方獨逸軍ノ疾風の巴里入城ヲ傳フル等悲報相次グニ及ンデ、十六日レイノール内閣ノ總辭職トナリ、ベタシ内閣成立ノ十七日遂ニ佛國ヲシテ獨逸ノ軍門ニ降ルノ已ムナキニ至ラシメタ。即チ佛國

ハ二十二日前大戰ニ獨逸ガ長キ恨ヲ吞ンデ佛國ニ屈伏シタ因縁ノ地北佛コンピエーニユニ於テ獨佛休戰協定ヲ受諾シ、次イデ伊佛休戰協定ニモ調印シ、茲ニ佛國ハ歐洲戰ノ一翼カヲ撤退スルコト、ナツタ。然シ之ニ對シ英國ハ佛新政府ヲ否認シ、飽クマデ對獨戰爭ヲ繼續スル旨ヲ聲明シタ。

斯ノ如キ世界ノ新情勢ニ對處シ、日本ハ東亞ニ於ケル安定勢力トシテノ立場カラ帝國外交ノ基本方針ヲ宣明スルコト、ナリ、二十九日有田外相ハラヂオ放送ヲ以テ此ノ重大演說ヲ行ツタガ、其ノ内容ハ世界平和達成ノ手段トシテ地域的安定分野ノ確立ヲ強調スルト共ニ東亞自主ノ原則ヲ闡明シ、尙歐米諸國ガ東亞ノ平和建設ヲ妨害スルコトナキ様反省ヲ促シ、更ニ今次歐洲戰爭ノ成行特ニ南洋ヲ含ム東亞ノ諸地ニ及ボス影響ニ付テハ重大ナル關心ヲ有スルモノデアル等ヲ明カニシタモノデアツタ。即チ歐洲戰爭ノ推移ガ傍印。蘭印問題等漸ク東亞ニ波及セントスル現狀ニ鑑ミ、東亞ノ安定勢力タル日本ヲ中心トスル所謂東亞モンロー主義ヲ中外ニ闡明シタモノデアツタ。

敎上ノ如キ目マグルシキ國際時局ノ變轉ノ裡ニアツテ日滿兩國ノ融合ハ益々固ク、我が皇帝陛下ニハ日本紀元二千六百年御慶祝ノ爲六月二十二日國都御發、御訪日ノ途ニ上ラセラレ、二十六日東京御著、畏クモ 天皇陛下ト至崇三高ノ御交驛ヲ遂ゲサセラレタルコトハ、東亞自主ノ礎石タルベキ日滿兩國ノ一體的融合ヲ御躬ヲ御顯示アラセラレタルモノデアリ、兩國一億四千萬國民ノ恐懼感激ノ裡ニ此ノ御盛儀ヲ終ヘサセラレタ。

◎ 滿洲財界事情

外國爲替管理ノ強化

政府ハ日滿支通貨政策上ノ見地ヨリ過般緊急措置トシテ滿洲國幣ノ北支向携行限度ノ引下
ゲヲ行ツタガ（本週報第一七八號所載）、今回之等法の根據ヲ強化スル爲七月十一日經濟
部令ヲ以テ爲替管理法ニ基ク命令ノ件中改正ヲ行ヒ七月十五日ヨリ之ヲ施行スルコト、ナ
リ、同時ニ之ニ關スル經濟部當局談ヲ發表シタ。

經濟部當局談

現下我が國經濟ノ諸情勢ヨリシテ國際收支ノ合理的調整及密輸出ノ徹底的抑制ハ最緊要ナ
ルニ付、右要請ニ基ク爲替管理強化ノ取締體制ヲ法制化スルノ目的ヲ以テ爲替管理ニ關ス
ル經濟部令ノ一部ヲ改正シ、來ル七月十五日ヨリ

一、滿洲内ニ於ケル外國通貨（磅、法、留、聯銀券、兼銀券等）ニ依ル支拂ノ取締リ

二、通貨（日本通貨又ハ外國通貨）ノ滿洲外ヘノ輸出ノ取締リ

三、國幣、日本紙幣及外國通貨ノ滿洲内ヘノ輸入ノ取締リ

四、滿洲外ヘ又ハ滿洲内ヘノ旅行者ノ旅費携帶限度ノ引下ゲ

五、滿洲外送金ノ取締リ

ヲ行フコト、シタ。最近滿支間ニ於ケル通貨及物貨ノ實勢著シク乖離セルニ伴ヒ國境地帶
一帯ニ兩國通貨ノ氾濫交流ヲ見ルト共ニ物資ノ北支向逃避甚シク、爲ニ我が國通貨政策及貿

易政策等諸經濟政策遂行上支障少カラザル事象現ハレタルヲ以テ之ガ緊急對策ヲ講ズルノ必要ニ依リ、既ニ事實上ノ措置トシテ諸工作ヲ行ヒタルモ更ニ之ヲ徹底セシムル爲今回ノ改正ニ於テ

一、滿洲内ニ於ケル外國通貨ニ依ル支拂

二、通貨（日本國通貨又ハ外國通貨）ノ滿洲外ヘノ輸出及國幣（日本國紙幣又ハ外國通貨）滿洲内ヘノ輸入ハ經濟部大臣ノ許可ヲ要スルコトニシタ

次ニ北支向旅行者ノ携帶通貨ノ取締ニ關シテハ既ニ六月二十一日ノ新聞及ラニ於テ臨時爲替局當局談ヲ發表シタ通り六月二十四日ヨリ事實上ノ措置トシテ携帶通貨ノ交換額ヲ制限シタルモ、今回ノ改正ニ於テハ旅行者ノ通貨携帶輸出入額ヲ

一、旅費トシテ五十圓相當額以上ノ外國通貨ヲ携帶スル場合

二、旅行者ガ金額五十圓以下ヲ携帶輸入スル場合

ヲ除キ經濟部六臣ノ許可ヲ要スルコトニシ、從來ノ自由携帶輸出入限度タル現金、信用狀、送金爲替ヲ通算シテノ五百圓及自由携帶輸入限度金額二百圓ヲ大幅ニ引下ゲ、國際收支適合ヘノ一助タラシメントスルモノデアル。旅行者ハ之等取締ノ趣旨ヲ體シ旅費携帶ハ出來得ル限り送金爲替ヲ利用シ現金ノ携帶ハ必要アル最少額ニ止ムルト共ニ大連埠頭、安東、奉天、山海關、古北口ノ各鐵道驛ニ所在スル鮮銀、中銀又ハ聯銀ノ紙幣交換所ヲ利用シ旅行先ノ外國通貨ニ交換セシメ度イ。

尙生活費等一般貿易外送金ノ取締ニ關シテモ國際收支調整ノ目的ヲ以テ一箇年五百圓相當額以下ノ送金自由限度ヲ撤廢シ、金額ノ如何ニ拘ラズ經濟部大臣ノ許可ヲ要スルコトトシタ。

此ノ送金ノ徹底的取締ニ關聯シ考慮セラル、コトハ勞働者ノ送金ナルモ、之ニ付テハ特ニ我ガ國產業開發ノ現況ニ鑑ミ、當局トシテ重大ナル關心ヲ拂ツテ居リ、之ガ具體的措置ニ付テハ產業開發ノ重點主義ト步調ヲ合セ遺憾ナキヲ期シ度イト考ヘテ居ル。

以上改正ノ目的、改正事項ノ大略ヲ説明シタガ、要スルニ今回ノ改正ハ國民全体ノ協力ヲ得ザレバ何等其ノ效果ヲ舉ゲ得ザルヲ以テ、政府ノ方針ヲ理解シ、萬一法ニ違犯スル如キコトナキヤウ希望スル次第デアル。

右當局談ニ依リ今回改正ノ目的及改正事項ノ大略ハ明カデアルガ、改正部令ノ要點ヲ摘記スレバ左ノ通りデアル。

一、滿洲内ニ於ケル外國通貨（日本國通貨ヲ除ク）ニ依ル支拂ヲ經濟部大臣ノ許可事項ニ加フ（第三條第五號追加）

二、滿洲外（日本ヲ除ク）ニ旅行セントスル者ノ旅費トシテノ外國通貨携帶限度ヲ五十圓相當額以下（舊五百圓相當額以下）ニ引下グ（第四條第三號改正）

三、外國（日本ヲ除ク）ニ旅行シ又ハ滞在スル者ニ對シ旅費、俸給、給料、手當、學費等ノ送金ハ金額ノ如何ニ拘ラズ許可ヲ要ス（第四條第五號削除）

其他ノ各號ニ該當セザル一箇年ヲ滿ジ百圓相當額以下ノ自由送金ヲ禁ズ（第四條第八號
削除）

五滿洲外（日本ヲ除ク）ヨリノ紙幣、日本國銀行券又ハ外國通貨ノ輸入不要許可限度ヲ
二百圓ヨリ五十圓ニ引下グ（第十一條ノ二改正）

尙關東州側ニ於テモ右同様ノ趣旨ヲ以テ七月十一日關東州外國爲替管理規則ヲ改正シ、七
月十五日ヨリ之ヲ實施シタ。

金融引締政策ノ影響

政府ハ疊ニ本年度資金計畫調整要綱（本週報第一七六號所載）ヲ決定シ、右要綱ノ趣旨ニ
基キ政府財政ノ緊縮ヲ圖ルト共ニ特殊會社、準特殊會社ノ事業資金及經營ニ壓縮ヲ加ヘ、
資金ノ合理的運用ニ萬全ヲ期シツ、アルガ、右ニ對應シ金融部面ニ於テハ政府ノ方針ヲ體
シ當分ノ間金融引締政策ヲ斷行スルコト、ナリ、目下之ヲ實行中デアル。而シテ其ノ經過
ハ各銀行ノ完全ナル協力ニ依リ極メテ良好ナル成績ヲ示シ、一般物價騰貴ノ抑制ニ資スル
コトハ勿論、思惑買溜モノノ防止、不當在庫品ノ投出シ等戰時下統制經濟ノ圓滑ナル運営ヲ
阻害シツ、アツタ種々ノ惡素因ヲ除去スル上ニ相當好影響ヲ齎シツ、モノト見ラレテ居ル。
但シ本政策實施後僅ニ一箇月餘ヲ經過セルニ過ギズ、從ツテ其ノ影響モ未ダ必ズシモ顯著
デハナク、又全滿各都市、各商品及金融機關ヘノ依存程度如何等ニ依リ一律ニ見ルコトハ
出來ナイガ、大體今回ノ金融引締ハ思惑又ハ買溜資金、不急用途ノ資金、其ノ他國策ニ反

スル虞アリト認メラレル資金貸出ハ徹底的抑制ヲ圖ツテ居ル關係上此ノ種原因ニ依リ騰貴ヲ招來シツ、アツタ各品商品ハ先ヅ在庫品ノ投出シヲ餘儀ナクサル、ト共ニ今後ノ思惑買溜ハ不可能トナリ、相場低落ノ傾向ヲ見セテ居リ、特ニ木材、セメント、煉瓦等土建材料ハ顯著ナルモノガアル様デアル。又原棉、ゴム製品等ノ外電話相場、家賃等モ大體頭打ちノ形デ値下ゲ氣配ガ濃厚デアル。

然シ右ノ傾向ハ特ニ近代の金融機關ト密接ナル關聯ヲ有スル日人間ニ見ラレル所デ、之ト比較的關係薄キ滿人筋デハ此ノ儘値下リ傾向ガ濃化シテモ買溜ストツクヲ吐出ス迄ニハ未ダ多少ノ期間ガアルトモ見ラレルガ、斯ル傾向ガ續ク限り結局ハ手持ニ堪ヘナイ所デ、何レニシテモ今回ノ金融引締ガ聞取引ト之ニ因ル異常ナル物價高抑制ニ著シイ效果ヲ與ヘタコトハ決定的デアル。

農產物出廻リ活潑化

昨年來實施サレ來ツタ農產物統制ノ結果、其ノ出廻リハ頗ル不圓滑トナリ、之ガ制度ノ再檢討論ガ擡頭シ、大豆ヲ始メ米穀及主要糧穀ノ蒐荷、收買配給機構ニ付テモ種々論議サレテ來タガ、最近端境期ナガラモ農產物ノ出廻リハ活潑化シテ來タ模様デ、右事情ハ今後ノ統制方針ニモ影響スル所大デアリ、當局ニ於テモ多大ノ注意ヲ拂ツテ居ルト云ハレテ居ル。右原因ハ政府ノ出荷促進工作、或ハ雨期ニ入り手持ノ解放等モアルガ、其ノ主要ナル原因ハ大體左ノ諸點ニ存スルモノト見ラレ、今後ノ成行ハ頗ル注目サレテ居ル。